

法政大学

『環境報告2015』

プログラム

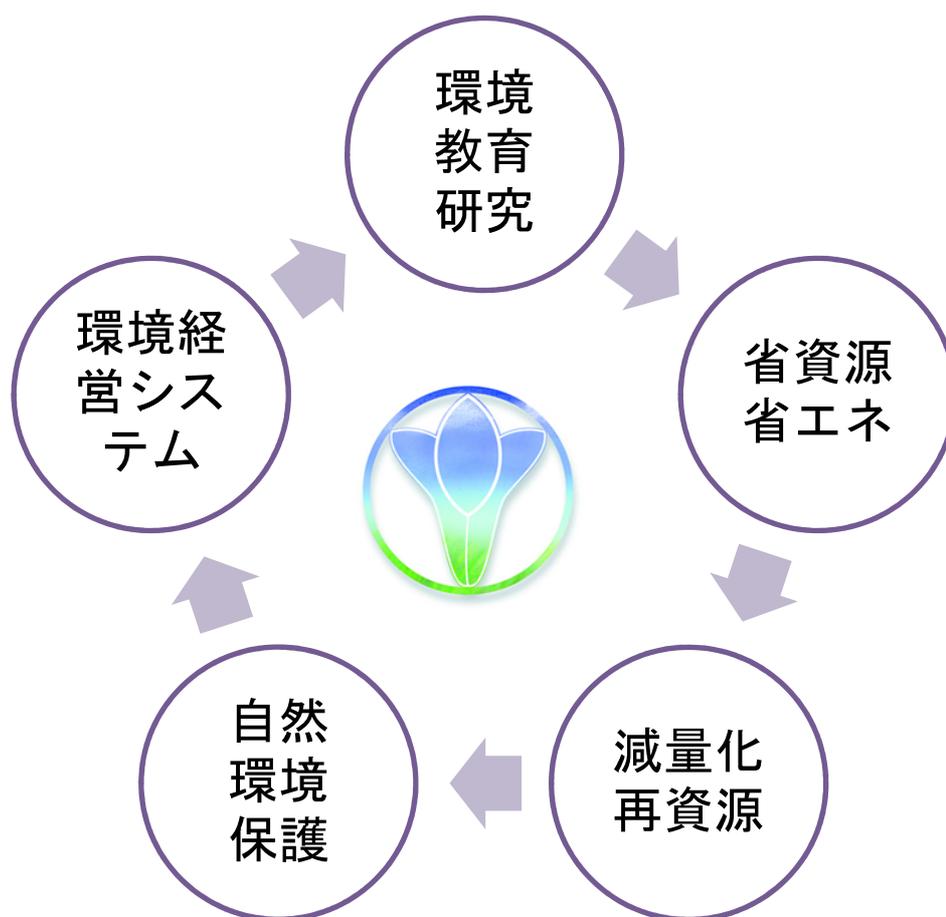


えこぴよん

(1) 法政大学の環境理念とは？

(法政大学環境憲章)

学校法人法政大学は「開かれた法政 21」のビジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。



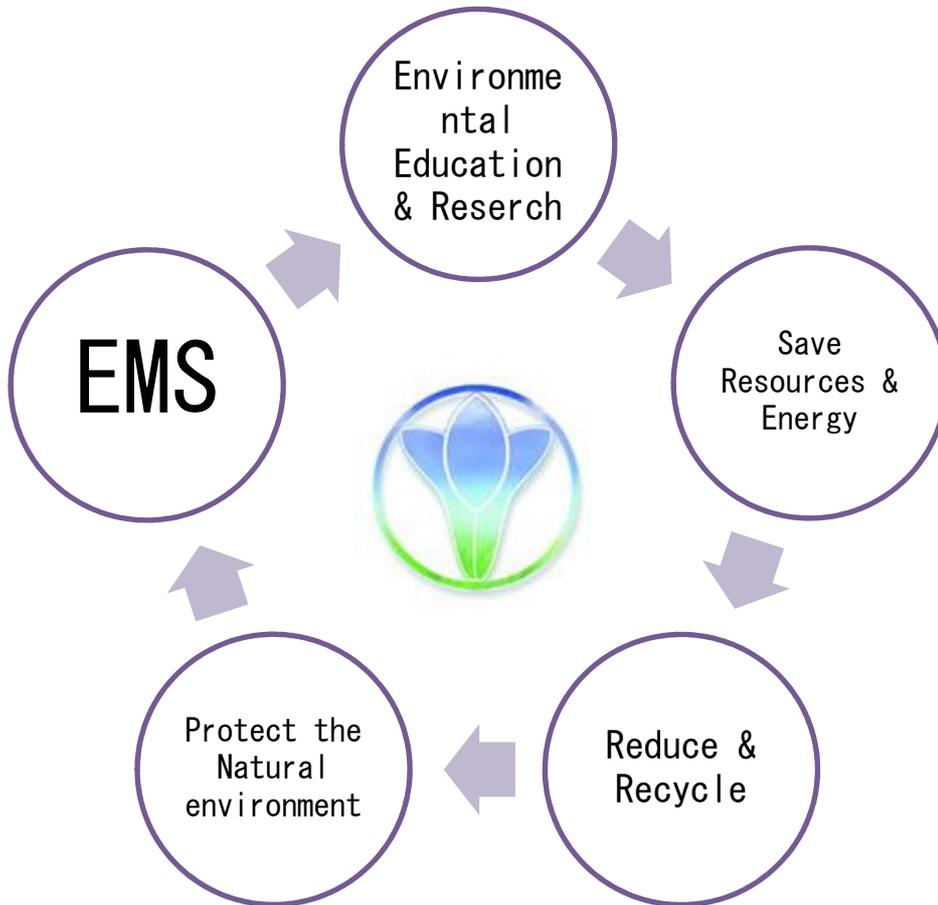
(行動指針5つ)

1. 地球環境問題についての教育研究および啓発活動を積極的に展開する。
2. 省資源・省エネルギーに努める。
3. 廃棄物の減量化・再資源化に努める。
4. 自然環境の保護に努める。
5. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に努める。

1999年3月10日
法政大学総長 清 成 忠 男

(Hosei University's Environmental Charter)

Under the vision of "Open Hosei 21," Hosei University will strive to realize the "Green University" as a university-wide effort, in order to achieve harmony and co-existence with the earth environment as well as to achieve the highest qualities of mankind, through various activities including educational research.



(Action Guide 5)

1. Positively develop educational research and public education activities as associated with global environmental problems
2. Strive to save resources and energy
3. Strive to reduce and recycle waste material
4. Strive to protect the natural environment
5. Build the environmental management system and strive toward continual improvement of the system.

March 10, 1999

Tadao Kiyonari President, Hosei University

(2) 法政大学のPDCAサイクルとは？

Plan

① 計画 (Plan)

1) 環境側面2つ

- ・有害なモノ → エネルギー使用、紙資源消費、廃棄物排出など
- ・有益なコト → 環境教育・研究、講演会・講座、地域社会連携、環境情報発信

2) EMS＝環境改善活動 → 「目標管理の原則」を遂行

第1段階＝ 3か年計画 → 「2013-2015年度環境目的・目標策定表」

第2段階＝ 1年計画 → 「2015年度グリーン・キャンパス創造計画書」

第1段階：3か年計画の概要

市ヶ谷キャンパス

1. 環境改善の啓発活動

環境目的	13年度	14年度	15年度
環境意識啓発	教職員・市民に対し地球環境問題の公開セミナー・シンポジウム等各1回以上企画・実施	同	同年1回以上企画・実施
体験学習	教職員・学生向けの体験型プログラム前・後期各1回以上企画・実施	同	同年1回以上企画・実施
環境管理・監査	EMS研修講座の学内外に広報し受講推奨		

2. 地域社会の環境保全活動

環境目的	13年度	14年度	15年度
学内外の諸機関等との交流	他キャンパス・付属校と交流を1回以上企画・実施	同	同
	学外諸機関との交流を年1回以上企画・実施	同	同

3. 環境関連情報の発信

環境目的	13年度	14年度	15年度
環境意識の啓発	環境報告書(年1回)、HP等による環境情報の発信(毎月)	同	同



多摩キャンパス

1. 環境改善の啓発活動

環境目的	13年度	14年度	15年度
環境意識啓発	教職員・市民を対象に環境問題の公開セミナー・シンポジウム等を企画・実施	同	同
体験学習	環境問題に関連した展示その他活動を企画・実施	同	同

2. 地域社会の環境保全活動

環境目的	13年度	14年度	15年度
学内外の諸機関等との交流	学外の諸機関と交流を年1回以上企画・実施	同	同
多摩キャンパスの自然環境の保全	自然環境の現況を把握、環境保全の方向性を検討	同	同

環境負荷の低減の取り組み(市ヶ谷・多摩キャンパス共通)

1. 省資源の推進

環境目的	13年度	14年度	15年度
コピー用紙など使用量削減のため12年度実績基準値より3年間で推定使用量から3%削減	目標値は推定使用量の1%減	同2%減	同3%減

2. 省エネルギー

環境目的	13年度	14年度	15年度
東京都による「温室効果ガス排出総量削減義務」に準じて特定温室効果ガス排出量を削減する	特定温室効果ガス基準排出量の8.0%削減	同8.0%削減	同17%削減

3. 廃棄物の抑制と再資源化の推進

環境目的	13年度	14年度	15年度
一般廃棄物排出量について(学生一人当たり排出量)基準値2012年度を維持	基準値を維持	同	14年度実績値の1%減



Plan

第2段階 年間計画

2015年度 グリーンキャンパス創造計画書

1. 環境改善のための啓発活動の推進

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
市ヶ谷	環境意識の啓発の推進	教職員・市民に対し地球環境問題の公開セミナー等年1回以上企画・実施	◎
	体験学習の推進	教職員・学生向けの体験型プログラムを実施(年1回以上)	◎
多摩	教職員・市民を対象に環境問題の公開セミナー・シンポジウム等を企画・実施	環境問題をテーマとした公開授業開催	◎
	環境問題に関連した展示その他活動を企画・実施	学内での環境展・環境問題の合同ゼミ、エコツアー等開催	◎

2. 地域社会の環境保全活動への参画

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
市ヶ谷	学内外の諸機関等と交流	学内の他キャンパス・付属校との交流会を企画・実施(1回以上)	△
		他大学・諸機関との環境交流会を企画・実施(1回以上)	◎
多摩	学外の諸機関と交流プログラムを年1回以上企画・実施	他キャンパス・付属校との交流や他大学・諸機関との環境交流の実施	○
		学生の環境自主活動への協力、私立大学環境保全協議会研究研究会への参加	
	多摩キャンパスの自然環境の現況を把握、環境保全の方向性を検討	多摩キャンパスの気象観測、森林実態調査結果をもとに環境教育への活用および環境保全の方向性を検討	△

3. 環境関連情報発信の推進

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
共通	環境意識啓発の推進	「環境報告」(年1回)の発行、HP等による環境情報の発信を適宜行う	○

4. 省資源の推進

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
共通	推定使用量の1%削減	コピー、リソ、OA用紙の使用量管理、抑制の啓発活動、特に教員への啓発	△



5. 廃棄物の抑制と再資源化の推進

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
共通	市ヶ谷：一般廃棄物排出量を14年度実績の1%減	分別の徹底、有価物の再資源化促進、機密性の高い文書処理とりまとめ、学生の課外行事で廃棄物削減の徹底化	◎
	多摩：12年度排出を維持		

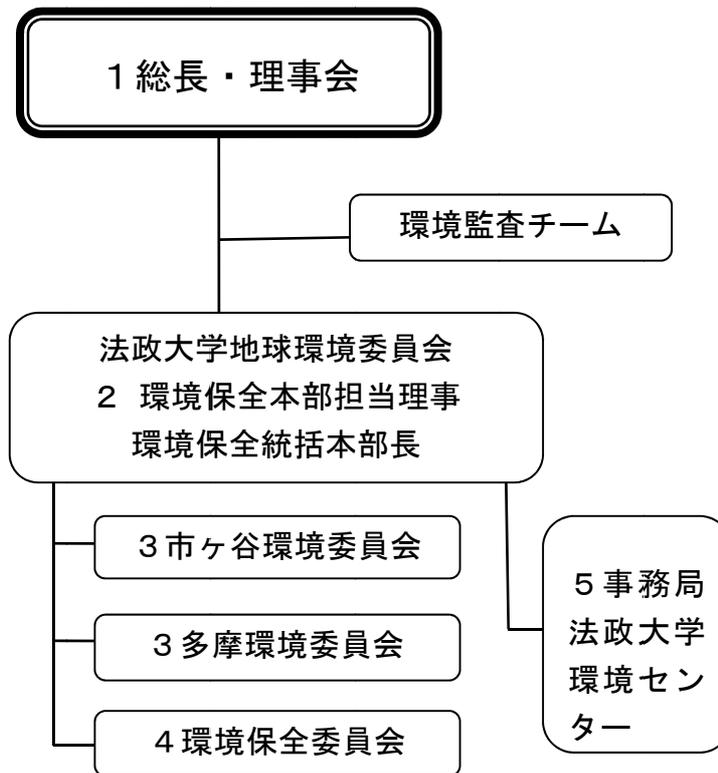
6. 省エネルギー

	2015年度環境目標	環境マネジメントプログラム	達成状況
共通	東京都の「温室効果ガス排出総量削減義務」に準じて特定温室効果ガス基準排出量の17.0%削減	(市ヶ谷・多摩共通) 照明装置の使用管理 冷暖房装置の運転管理 エレベーター利用管理(上がり1階、下り2階以上の階段利用) 省エネ強化月間(クールビズ・ウォームビズ)	△
		(市ヶ谷) 屋上緑化事業 ロゴライトアップ時間の維持(日没後～22時) 夏季休暇中のエレベーター一部停止など	
		(多摩) 警備員巡回19時に未使用教室の消灯 イルミネーション点灯時間維持 休暇中の自販機稼働台数の削減を業者要請	





② 実施（D o）＝推進体制



法政大学 環境マネジメントシステム組織図

- 1 総長は環境管理責任者を任命し EMS の確立・実施・維持の役割・権限・責任を付与。
- 2 地球環境保全委員会を招集し、環境方針や運営組織など全学的な問題を審議する。
- 3 環境教育研究を推進し、学内外を対象に環境意識を高める企画をする。
- 4 環境負荷の低減と環境意識の啓発推進に取り組む。
- 5 EMS 全般を統括する。



③ 点検・是正 (Check)



Check

・2015年度 内部環境監査

1. 監査実施日：

2015年9月28日、29日（多摩キャンパス）

2016年2月22日、23日（市ヶ谷キャンパス）

2. 監査実施内容

- ① 両キャンパスの環境マネジメントシステムが ISO14001 規格の要求事項および本学の手順書等に適合し、有効に維持・運用されているか否かの検証を実施。
- ② 「環境目的・環境目標」及び「グリーン・キャンパス創造計画」について各部門、管理単位への周知と理解及び取り組み状況を検証した。

3. 監査結果

- ① 「環境目的・環境目標」及び「グリーン・キャンパス創造計画」を構成員に示達し、手順に沿って実施されていた。
- ② 東京都環境確保条例による CO2 削減目標 17%達成は極めて困難と判明した。
- ③ 優れた取り組み例
多摩地区で近隣地域と環境ボランティア活動を実施し、各種イベントの交流を図った。
市ヶ谷地区では、教学部門での各種申請用紙の電子化、会議のペーパーレス化、冊子案内の HP 案内への切り替えなどにより、省資源と利便性実現を遂行できた。

④ 見直し (Act)



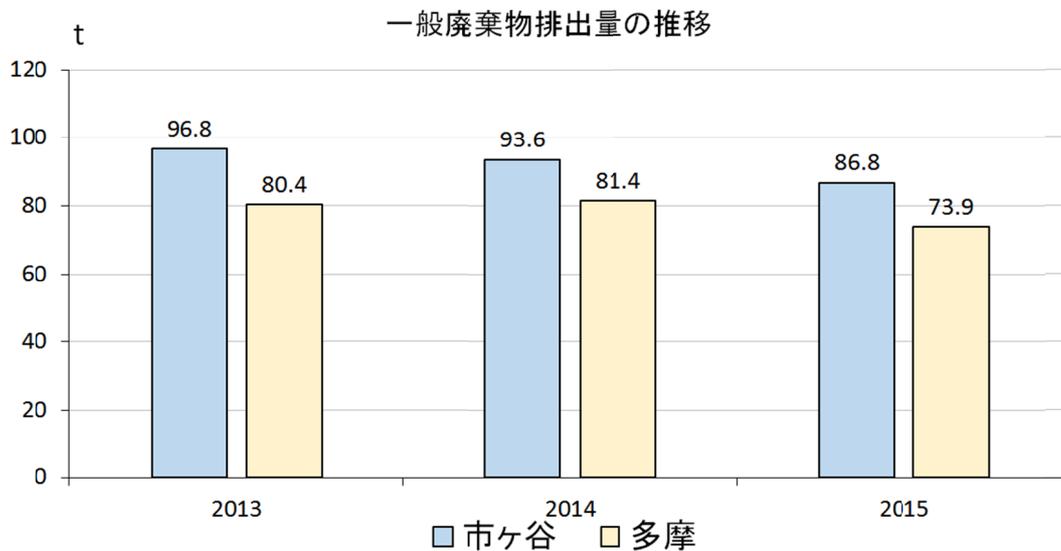
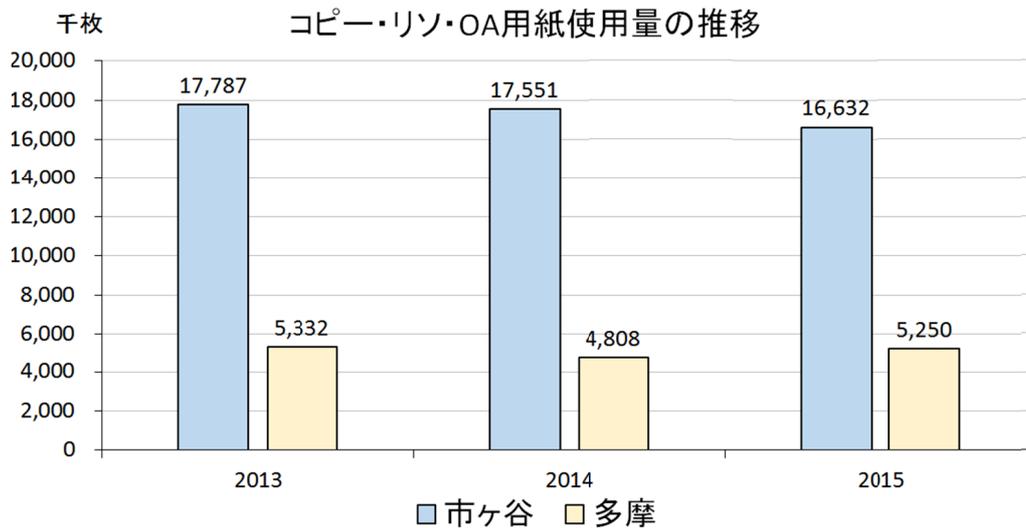
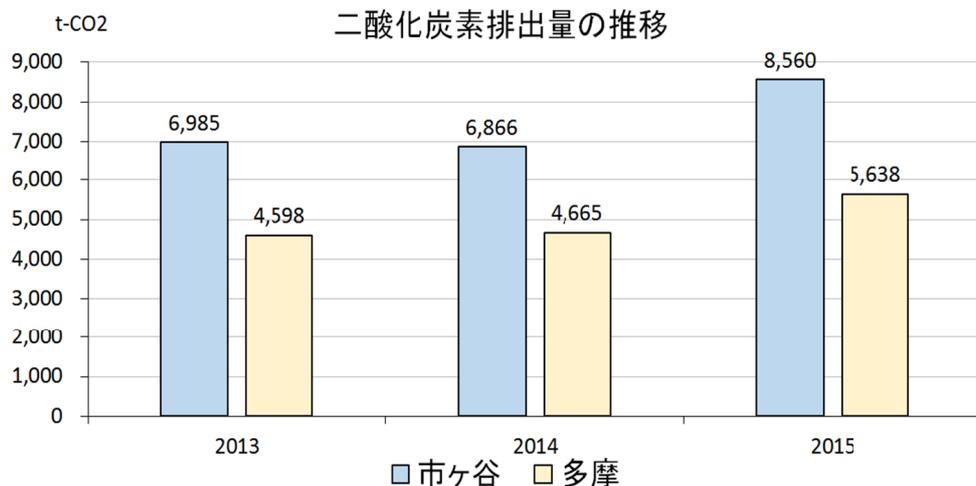
Act

1年間の環境マネジメントシステム活動の全般を通じての反省点や問題点を確認し、改善に向けたシステムの「マネジメントレビュー」を行っている。

2016年度のマネジメントレビュー

→ 「環境・サステナビリティ教育実践プラン」の企画を立ち上げ、対外的な発信力向上を掲げ、法政大学の環境先進大学であることをアピールした。

(3) 法政大学の環境負荷データ



(4) 法政大学の環境改善活動

① 「エコプロダクツ 2015」 出展 (金藤正直先生)

日 時 : 2015年12月10日(木)～12日(土)

場 所 : 東京ビッグサイト

テーマ : 人間環境学部の出展

- ・ 『人間と環境の共存を目指した新しい持続可能社会を構築していくための文理融合の取り組み』
- ・ 法政大学の教職員・学生などと環境関連部署約160名来訪。
- ・ 高田雅之先生 『地球環境問題をグローバルな視点で解決していくための教育・研究活動』 プレゼン実施



② 多摩環境委員会の活動 (明城聡先生)

1) 環境改善のための啓発活動の推進

- ・ 12月環境公開授業実施
社会学部: 「自然科学特講」、「環境生態学」
現代福祉学部: 「地域経済論」
- ・ 12/5 「多摩環境展」(多摩キャンパスコンサート同時開催)
約1000人の学外参加者、法政の環境問題の取り組み紹介

2) 地域社会の環境保全活動への参画推進

- ・ 5/9 キャンパス内「たけのこ掘り」 学生、職員が参加。



グリーン・ユニバーシティ 法政

法政大学は、持続可能な発展には地球環境問題への取組みが重要であると認識し、法政大学環境憲章の下、全学を挙げ、グリーン・ユニバーシティを目指し、以下の取組みを推進する。

1. 教育研究活動や公開シンポジウムなどを通じ、大学内外の健全な環境の維持・向上に努めるとともに、環境改善のための啓発活動を積極的に展開する。
2. キャンパス内での活動として、省資源・省エネルギー、グリーン購入、廃棄物の抑制と再資源化の促進、緑化などに積極的に取り組む。また地域社会の環境保全活動に参画する。
3. キャンパス内での活動にともなう環境負荷を低減するとともに、地球環境問題に関する議論や啓発などの活動を推進するため、目的・目標を策定する。各キャンパスで活動する教職員は一致してその達成に努める。
4. 活動に関わる環境関連の法規制などを順守するとともに、環境汚染の予防と自然環境の保全・再生に努める。
5. キャンパスの教職員、学生、関連会社の社員に対し、環境教育を通じて環境意識の高揚を図る。
6. 定期的に環境監査を実施し環境マネジメントシステムを見直すと同時に、その継続的改善に努める。
7. 環境憲章や環境方針を始めとする環境関連情報を、文書や大学ホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/>) などを通じて、学内の教職員・学生や一般社会へ積極的に公開し、大学の内外でのコミュニケーションを推進する。

2014年4月1日

法政大学総長 田中優子



Aiming for 'Green University'

Hosei University acknowledges the importance of finding solutions to global environmental problems in sustainable development. The University in its Environmental Charter thus states that the whole of its academic community supports the aim of a Green University and hereby promotes the following:

1. Through environmental education and research, seminars, and symposiums, Hosei University shall make every effort to improve and maintain a sound environment inside and outside the university, and actively organize an educational movement for environmental improvement.

2. The University shall actively promote resource conservation, energy conservation, green purchasing, reduction of waste and recycling, and tree-planting on campus, and take part in community activities on preservation of the environment.

3. The University shall minimize environmental aggravation caused by activities on campus and set objectives and targets in order to promote activities such as debates, discussions and other educational programs about worldwide environmental issues. All Hosei University faculty members and staff shall strive to achieve these objectives and targets.

4. The University shall comply with environmental laws and regulations related to activities on campus, and endeavor not only to prevent contamination of the environment but to also work towards its conservation and recovery.

5. The University shall strive to raise the environmental awareness of all members of the Hosei community including affiliated companies through environmental education.

6. The University shall regularly implement internal audit in order to review the environmental management system, and make all possible efforts to continuously improve it.

7. The University shall actively announce its environmental policy, the environmental charter and other environmental information in writing or on its website (<http://www.hosei.ac.jp/>) to all members of the Hosei community and the general public, and promote internal and external communication.

April 1, 2014

Yuko TANAKA President Hosei University

(編集後記)

本「プログラム」は、「第1回環境・サステナビリティ教育実践プラン」で応募した「環境報告書を用いた環境教育の実践方法」の成果の一部である。この「プログラム」によって本学の環境マネジメントシステムの理解、向上を期待しています。

作成者：法政大学大学院公共政策研究科 金藤大学院ゼミナール

(○吉田雄司、中澤美昇、山田一人、兼坂英子、姚瑶) ※代表者は○。

以上

問4 2015年度の「グリーン・キャンパス創造計画書」は理解できましたか。(6頁、参照)

1. よく分かった 2. だいたい分かった 3. 分からない

問5 法政大学の「環境推進体制」は理解できましたか?(8頁、参照)

1. よく分かった 2. だいたい分かった 3. 分からない

問6 「環境・サステナビリティ教育実践プラン」を知っていますか?(9頁、参照)

1. 知っている 2. このプログラムで知った 3. 知らない

問7 法政大学の「環境負荷データ」は理解できましたか?(10頁、参照)

1. よく分かった 2. だいたい分かった 3. 分からない

問8 「グリーン・ユニバーシティ」の意味を理解できましたか?(12頁、参照)

1. よく分かった 2. だいたい分かった 3. 分からない

問9 法政「えこびよん」キャラクターを知っていますか?

1. 知っていた 2. このプログラムで知った 3. 知らない

Ⅲ 今後、より見やすく、読みやすく、理解しやすい環境報告にしていくためには、どのようなことが必要だと思われませんか。 に自由に記入してください。

ご協力有難うございました。